

## 第4学年国語科学習指導案

日 時 平成24年10月11日(木) 5校時  
児 童 4年生11名(男子7名, 女子4名)  
指導者 盛合真理子

1 単元名 読んで考えたことをしょうかいしよう  
教材名 「ごんぎつね」 新美南吉 作 (光村図書 4年下)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、これまでに「白いぼうし」や「一つの花」において、登場人物の様子や情景を想像しながら工夫して音読劇をしたり、自分の感想や考えを入れながら本の紹介をしたりする学習を行ってきた。これらの学習を通して、登場人物の行動や様子を読み深めていく楽しさを味わい、自分の感想や考え、心に残った個所を簡潔にまとめることができるようになってきている。

しかし、読み取りについては、「叙述に即して読む」のではなく、文全体の感じや自分の憶測で読んでしまい、想像を膨らませて内容を読み取ったり、根拠に基づいた考えを表現したりする力には個人差がある。全体的に明るく素直な児童が多いが、自分の考えを論理立てて発表することが苦手である。

以上の実態から、現段階での本学級の児童に育てたい力は、叙述に基づいて想像し、感想や考えを相手に分かりやすく伝え話し合うことと、一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えに深まりが見えるような表現をすることであると考えます。

#### (2) 単元の指導事項

児童の実態に即し、本単元では、第3・4学年「C 読むこと」における以下の指導事項を育てたい言語能力としてより詳細にとらえ、単元を通して具体的に指導していく。

#### ◆育てたい言語能力◆

##### 読むこと

○場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと 【読(1)ウ】

・情景、会話文、地の文、心内語や語句に着目して、登場人物の気持ちの変化を読む。

○目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること 【読(1)エ】

・人物や情景の描写などの叙述に着目した根拠をもち、自分の考えや感想を組み立てる。

○文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。

【読(1)オ】

・自分の感想の根拠としたことを、友達の感想の根拠と比べて考える。

#### (3) 教材について

本教材は、ひとりぼっちのごんぎつねが同じ境遇の兵十に親近感を抱き、ひたむきにいたずらの償いを続け、最後に命と引き換えにしか通じ合えなかった心の交流の姿を描いている。「ごん」や村人「兵十」の様子や場面を想像しながら、心の通い合いについて考えながら読める作品である。

この物語は、6つの場面に分かれており、起承転結の四段構成になっている。

起：①物語の発端。物語の背景。承：②ごんの後悔。転：③～⑤ごんの償い。結：⑥ごんの死。

第1場面から第5場面はごんの視点から書かれており、第6場面だけは兵十の視点から書かれている。このことは、ごんを火縄銃で撃ったことに対する兵十の後悔や悲しみを想像・共感しやすくしている効果がある。また、ごんに寄り添い一緒になって償いの気持ちに共感してきた児童は、兵十に撃たれるという悲劇的な結末につらさを感じることができると思われる。また、遠景や近景、全体から部分、色の対比など、情景描写が効

果的に使われていて、登場人物の行動や気持ちと結び付けて想像することができる。児童一人一人がそれぞれ違った感想や考えをもち、話し合いを通してお互いの考えの違いに気付くことができると思う。このことから、自分が判断の根拠としたことを他者の根拠と比べる活動を通して、自分の感想・考えを見つめ直すとともに感じたことを話し合う指導に適した教材と考える。

(4) 単元の指導に当たって

本単元の最終的なねらいとする「ブックトーク」をするという目的意識をもたせ、意欲を継続させながら自分の考えや感想を話し合う活動に取り組みさせていく。

そこで、児童の実態と育てたい言語活動とを考慮して、以下のような単元の指導を計画した。

<単元を通じた言語活動>

動物を題材にした物語のブックトークをしよう。

第1次（2時間）・・・単元のめあてを知り、学習の見通しをもつ。

「読んで考えたことを話し合おう」という単元名とリード文から登場人物の行動や様子に着目して考えを交流していくおもしろさを最終ゴールである「ブックトーク」のモデルを示し、動物が出てくる本の紹介をするという目的意識をもたせる。学習の手引きを活用し、具体的な表現の仕方を指導し、単元における言語活動への見通しをもたせたい。



第2次（7時間）・・・場面の様子や登場人物の行動や会話から、登場人物の気持ちを想像し、兵十やごんについて感じたことを話し合う。

いたずらを繰り返すごんの境遇をおさえ、兵十の母の死をきっかけに兵十への親近感が芽生え始め、兵十に近づきたいという思いが強くなっていくごんの気持ちの変化を読み取っていく。兵十とごんのすれ違いをどう考えたかを話し合い、自分とは違うさまざまな考えや感じ方があることに気づかせていく。そして、心内語や行動に着目をさせて、ごんの気持ちを想像させていき、対話や全体で話し合いを行い、友達の考えを聞いて自分の考えに広がりや深まりが感じられるようにしたい。各時間、「ごんの気持ちの変化」「ごんの性格」「登場人物同士の関係」のいずれかに着目させて、話し合いをさせていく。

「ごんぎつね」のブックトークを行う際に、それまでに各時間に書き残した感想を生かしながら紹介の内容を考えさせていく。



第3次（5時間）・・・動物を題材とした本のブックトークをし、感想を話し合う。

第2次の感想交流では感想の共通点や相違点、同じ感想でも別の叙述から引き出していることを知ることで感想や考えに深まりがでることを実感させたい。

並行読書をしてきた物語から選書をして、学習のまとめとして「ブックトーク」を行い、他の作品においても感想を交えながら、「気持ちの変化」「登場人物の性格」「登場人物同士の関係」に着目した話し合いになるようにしたい。

動物が出てくる物語の並行読書

3 単元目標及び指導計画・評価規準 (読む14時間)

単 元 の 目 標	<p><b>国語の関心・意欲・態度</b> ○叙述に着目して読み, 感じたことや考えたことを進んで話し合おうとしている。</p> <p><b>読むこと</b> ○登場人物の心情を, 叙述や情景描写を基に想像しながら読むことができる。 【読(1)ウ】 ○目的に応じて, 文章の細かい点に注意しながら読み, 文章などを引用したり要約したりすることができる。 【読(1)エ】 ○文章を読んで考えたことを発表し合い, 一人一人の感じ方について違いのあることに気づくことができる。 【読(1)オ】</p> <p><b>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</b> ○適切な言葉で考えを表すことができる。 【伝国(1)イ(ア)】</p>		
	次	時	主な学習活動
第 1 次 み と お す	1	○単元名やリード文から学習のめあてを確認し, 活動内容を確認する。 ○ブックトークのモデル提示をし, 学習の見通しを持つ。	【関】単元の見通しをもち, 学習内容を把握しようとしている。 (発言・観察)
	2	○全文通読し, あらすじをつかみ, 初発の感想をもつ。 ○自分の感想がどの場面についてか発表し, 友達の感想を聞いて思ったこと, 新たに感じたことを話し合う。	【読ウ】感想を交流し, 読み深めたいことを考えている。 (発言・観察)
第 2 次 ふ か め る	3	○ごんがいたずらばかりするわけを読み取る。 ○ごんの様子や行動について考えたことを交流する。	【読ウ】いたずらをするごんの様子や行動について読み取っている。(発言・ノート)
	4	○いたずらばかりするごんが変わる瞬間や気持ちの変化を読み取る。 ○ごんの様子や行動について考えたことを交流する。	【読ウ】いたずらを後悔しているごんの様子や気持ちを読み取っている。 (発言・ノート)
	5 本 時	○兵十に対するごんの思いの変化を読み取る。 ○ごんの様子や行動について考えたことを交流する。	【読ウ】兵十に対する償いや同情・共感するごんの様子や行動を読み取っている。 (発言・ノート)
	6	○ごんと兵十の関係を読み取る。 ○これまでのごんの行動について, 考えを交流する。	【読ウ】兵十とすれ違う関係のごんの様子や行動を読み取っている。(発言・ノート)
	7	○ごんのつぐないに気づいた兵十の気持ちを読み取る。 ○兵十の行動とうたれてしまったごんの様子や行動について考えたことを想像し, 考えを交流する。	【読ウ】ごんと兵十のそれぞれの様子や行動を読み取っている。 (発言・ノート)
	8	○「ごんきつね」の紹介したいことをまとめる。	【読エ】文章を引用したり, まとめて紹介している。(発言・ノート)
	9	○ごんの様子や行動について考えたことを発表し, 友達の感想を聞いて思ったこと, 新たに感じたことを話し合う。	【伝国イ(ア)】適切な言葉で考えを表すことができる。 (発言・ノート)
	10	○「ごんきつね」のブックトークをする。	【読オ】文章を引用したり, まとめて紹介している。(発言, ノート)
第 3 次 ひろ げ る	11	○ブックトークする物語について, 紹介したいことをまとめる。	【関】他の作品のブックトークをするために, 登場人物の変容を紹介しようとしている。 【読エ】文章を引用したり, まとめて紹介している。(発言・ノート)
	12		
	13 ・ 14	○「ごんきつね」との比較や物語の感想を紹介し合うブックトークをする。	【読オ】友達の感想を自分の感想と比べて聞き, 違いに気づいている。 (発言・観察・ノート)

4 本時の指導 ( 5 / 14 時)

(1) 目標

兵十に対する償いの気持ちが、同情や共感をしながら変化していくごんの気持ちを読みとることができる。

(2) 指導の手だて

研究主題と関わり、本時では考えを形成し表現できるようにするために、以下のような手立てを組む。

- ① ごんの気持ちの変化が分かる文や言葉を見つけ出し、それまでとの気持ちの違いを考えさせる。
- ② ごんの気持ちを書き込みし、対話、全体での話し合いを通して、ごんが松たけも持って行った兵十への気持ちをとらえさせる。

(3) 展開

	学習内容 (番号) と主な発問・指示 (○)	指導上の留意点 ◎【評価】(方法)
みとおす 5分	<p><b>1 前時の学習を想起する。</b></p> <p><b>2 学習課題を確認する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんは兵十をどう思って、くりや松たけをもつていくのだろう。</p> </div> <p><b>3 解決の見通しを立てる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんの気持ちが2回変化しています。どこで変化しているか見つけましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いたずらを後悔しているごんの気持ちを振り返り、前時の内容を確認める。</li> <li>・この場面から、兵十への償いの行動が始まったことを確認する。</li> <li>・ごんの兵十への気持ちがどのように変化したのか説明できるようにすることを知らせる。</li> <li>・「ごんは、・・・と思います。なぜかというところからです。」とまとめるゴールを示す。</li> </ul>
ふかめる 35分	<p><b>4 学習課題を解決する。</b></p> <p>(1) 学習場面を音読する。</p> <p>(2) ごんの気持ちに変化している文や言葉を見つけ、その気持ちを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」から兵十をどう思ったのでしょうか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・おっかあが死んで、かわいそうだ。</li> <li>・おれと同じ、ひとりぼっちの仲間</li> </ul> </li> <li>○「かわいそうに兵十・・・」は、前の気持ちと何が違いますか。</li> </ul> <p>(3) くりばかりではなく、貴重な松たけまで持って行ったごんの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜ、くりばかりではなく、松たけも持っていったのでしょうか。ごんの気持ちをノートに書いてみましょう。(対話・全体)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・心から兵十におわびを伝えたかったから</li> <li>・兵十が自分の仲間のように思ったから。</li> <li>・兵十と友達になりたかったから。</li> <li>・兵十を喜ばせたかったから。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんは、兵十と友達になりたかったと思います。なぜかといと、同じひとりぼっちだし、毎日兵十の所へ行っているからです。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんの兵十への思いが表れている場面を考えさせながら音読することを指示する。</li> <li>・前時の自分のいたずらの責任を感じた後悔や反省の気持ちと比べ、兵十に対する気持ちの変化をおさえる。</li> <li>・心情曲線で前時からの変化を比べる。</li> <li>・兵十を「かわいそう。」と思う気持ちが「おれと同じ・・・」の同情の気持ちとどう変わったといえよいかを指導する。</li> <li>・貴重な松たけを兵十に届けるところにまで変化したごんの兵十への思いを、目を追って考えさせる。</li> <li>・毎日、兵十の所へ行くごんの心情曲線の変化を考えさせる。</li> </ul> <p>◎【読む】兵十に対する償いの気持ちが同情・共感に変わっていくごんの気持ちを読み取っている。(ノート・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表する時は、感想を付け加えることを指示する。</li> </ul>

ま と め る 5分	<b>5 学習のまとめをする。</b> (1) 紹介したいことについてまとめる。 (2) 学習の学び方を確かめる。 ・気持ちが変化するきっかけを考える読み方。 (3) 次時の学習について知る。	・並行読書の中から、心の変化がある本を紹介してもらおう。 ・心情曲線に表すよさを振り返らせ、ブックトークにも活用できることを知らせる。
------------------------	--	--

(4) 本時の評価

評価 (評価方法)	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する 児童への手立て
兵十に対する 償いの気持ちが 同情・共感に変わ っていくごんの 気持ちを読み取 っている。 (ノート・発言)	償いの気持ちや同じ境遇の同情 だけでなく、兵十を喜ばせたいと いう親近感の強さを書いている。 ≪期待される児童の反応例≫ ・ごんは兵十と友達になりたか ったと思います。なぜかという 危険なのに毎日兵十の所に行つた り松たけを持って行つたりして、 兵十を喜ばせようとしているから です。	兵十への思いを根拠を基に 書いている。 ≪期待される児童の反応例≫ ・ごんは兵十と友達になりたか ったと思います。なぜかとい うと同じひとりぼっちだし、毎 日、兵十のところに行っている からです。	板書をもとに、ごん の気持ちの変化を振 り返らせ、気持ちの変 容が書けるように支 援する。

(5) 板書計画

